

失語症をご存知ですか

先日、荒川区障がい者地域自立生活支援セミナー「失語症」明日から役立つ会話のコツに参加してきました。失語症について「NPO法人 言語障がい者の社会参加を支援するパートナーの会 和音」の資料から抜粋してお伝え致します。

人が何気なくやっていること、手足を動かす、話す、見る、聞く、様々な感覚を感じる、全ては脳の働きによるものです。見る、聞く、手足を動かすことは左右両方の脳の働きです。そのため、片方の脳が損傷しても片方で補うことができます。

言語中枢は多くの人は左脳にあります。失語症は、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）や頭部外傷、脳腫瘍、脳炎などにより言語中枢の損傷されることで言語の操作能力（話す、書く、読む、計算、聞いて理解する）全ての側面に障害が及びます。全部できなくなるわけではないのですが、その症状は百人百様です。精神的なストレスから失語症になることはありません。

◇失語症と間違いやすい障害は

1 構音障害 唇、舌等の麻痺などが原因で発音が不明瞭

2 失声症 声帯の異常・精神的なストレスが原因で声が出なくなる

3 認知症 言語だけでなく認知機能が低下し、最近の記憶や状況判断が困難で徐々に進行する。

◎失語症では聞いて理解することは
耳で聞こえていても速く話されると言葉の意味が理解できない。また、複雑な内容や長い文を理解しにくい。

◎失語症では話すことは
言いたい言葉が思い浮かばない。（言いたい者の意味やイメージは判っている）
思ったことと違うことを言ってしまう。
（灰皿↓カイジャラ 懐中電灯↓乾電池）

◎失語症では読むことは
文字を読んで理解することが難しい（漢字よりも仮名が難しい。漢字は意味が判り易い。50音表の文字盤は使えない。声に出して読むことが難しい。読めても理解できないことがある。）

◎失語症では書くことは
文字を思い出せない。文を書けない。書き誤りがある。（時計↓時計 虫眼鏡↓虫眼鏡）

◎失語症では数字や計算は
数字は言い誤り・聞き謝りが多い。（日時・電話番号・生年月日・金額など）数字は聞くより、見る方が理解しやすい。口でいうより指で示す・書く方が正確。

コミュニケーション（会話）は人をつなぐ大切な道具です。大切なことは伝わること、わかることです。

失語症は目に見えない障がいです。話し手はゆっくり、はっきりと判り易い言葉で繰り返し話します。「はい・いいえ」で答えられる質問、選択しから選んでもらう質問など聞く時の工夫や表情や身振り、絵や地図など話し言葉以外の提示も会話がスムーズになります。数字は書いて。リソース手帳の使用も会話支援になります。そして確認は忘れずに。落ち着いて話せる雰囲気作り、お互いの顔が見える位置で表情をよく見て子ども扱いはないことも大切です。

失語症は社会的礼節、その人らしい人格、感情表現、社会への関心、出来事記憶、状況判断、芸術的側面など言葉以外の側面は保たれています。

失語症を正しく理解することが失語症の方の困難の軽減の第一歩です。優しい歩み寄りなことばのキャッチボールをしてみましょう。

介護予防講座
健康は足元から足のお手入れで快適生活 第3回
日時：1月25日（水）13時30分～16時
場所：南千住区民事務所西部ひろば館 101洋室
（南千住1-19-13）参加費材料資料代）500円
定員20名 申込み 090（2657）0300
後援：荒川区 荒川区社会福祉協議会